

麻しんの発生について（第3報）

市内において、麻しん（5類感染症）の発生届がありましたので、北九州市感染症公表要領に基づきお知らせいたします。

- 概要** 令和元年5月29日（水）、北九州市保健所から麻しんの届出があった。
- 患者情報** 門司区在住、34歳（外国籍）、男性
(No. 1～4の麻しん患者に係る健康観察対象者)
- 経過** 5月28日（火）発熱(38.2℃)あり。
5月29日（水）発熱持続、コプリック斑あり。
北九州市保健環境研究所にて遺伝子検査を実施。
遺伝子検査で麻しん陽性が判明。
- 現在の状況** 自宅療養中
- 感染原因** 不明
- 行政対応** 患者、家族等に対し健康調査、疫学調査を実施し、まん延防止のための指導を行っています。なお、患者の行動履歴等、詳細については調査中です。

7 麻しんの北九州市への届出状況(単位：人)

(令和元年5月30日10時現在)

	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年 (H31年)
発生届出数 (単位：人)	1	0	0	0	0	0	5*

※本件を含む。

【患者情報】

No.	年齢	性別	居住地	予防 接種歴	発症日	検査結果 判明日	備考
1 患者A	29	男	門司区	不明	5月16日	5月22日	5月8日入国
2 患者B	29	男	門司区	不明	5月16日	5月23日	5月8日入国
3 患者C	24	男	門司区	不明	5月20日	5月23日	5月8日入国
4 患者D	28	男	門司区	不明	5月20日	5月23日	5月8日入国
5 患者E	34	男	門司区	不明	5月28日	5月29日	No. 1～4 と職場で接触した可能性

8 その他

- 患者等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていただきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。
- 本市においては、別添「《麻しんについて》の《感染予防とまん延防止のために》」について市民の皆様と呼びかけています。

報道各位におかれても、別添「《麻しんについて》の《感染予防とまん延防止のために》」の内容の周知にご協力いただきますようお願いいたします。

《市民の皆様へ》

- 症状(別紙参照)から麻しんが疑われる場合、事前に医療機関へ電話連絡の上、速やかに受診してください。
- 受診の際には、感染を拡大させないように公共交通機関等の利用は控えてください。
- 麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下とされています。現時点で患者が利用した施設等を利用されても、当該患者を原因とする麻しんウイルスに感染することはありません。
- 北九州市では、風しんの抗体が低いと判明した方で妊娠を希望する女性などの対象者に対し、麻しん風しん混合ワクチンの一部費用助成を行っています。麻しんと風しんの両方の感染症が予防できます。詳細は、本市のホームページをご覧ください。
(<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/ho-huku/18301048.html>)

《麻しん（はしか）について》

- 麻しん（はしか）は、麻しんウイルスによる感染症です。
- 感染力がきわめて強く、麻しんの免疫がない集団に 1 人の発症者がいたとすると、12～14 人の人が感染すると言われていています（インフルエンザでは 1～2 人）。
- ほぼ 100%の人に症状が現れますが、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われてい
ます。

《症状》

- 麻しんウイルスに感染して 10～12 日後に、発熱や咳などの症状が現れます。
- 38℃前後の発熱が 2～4 日間続き、倦怠感、上気道炎症状（咳、鼻水、くしゃみなど）、結膜炎症
状（結膜充血、目やに、光をまぶしく感じるなど）が現れて次第に強くなります。
- 発疹が現れる 1～2 日前ごろに口の中の粘膜に 1mm 程度の白い小さな斑点（コプリック斑）が出現
します。コプリック斑は麻しんに特徴的な症状ですが、発疹出現後 2 日目を過ぎるころまでに消え
てしまいます。
- コプリック斑出現後、体温は一旦下がりますが、再び高熱が出るとともに、赤い発疹が出現し全
身に広がります。
- 発疹出現後 3～4 日で回復に向かい、合併症がない限り 7～10 日後には主症状は回復しますが、免
疫力が低下するため、しばらくは他の感染症に罹ると重症になりやすく、体力などが戻るのに 1 か
月くらいかかることも珍しくありません。
- 麻しんに伴って肺炎、中耳炎、脳炎などさまざまな合併症がみられることがあります。特に脳炎
は、頻度は低い（1000 人に 1 人）ものの死亡することがあり、注意が必要です。

《感染予防とまん延防止のために》 ～一人ひとりが気をつけましょう～

- 麻しんは、感染力がきわめて強いことから手洗いやマスクのみでの予防はできませんが、予防接
種（ワクチン接種）を行うことによって、95%以上の人々が免疫を獲得し、予防することができます。
- 予防接種は、自分が感染しないためだけでなく、周りの人に感染を広げないためにも有効です。
- 医療・教育関係者や、海外渡航を計画されている方は、麻しんの罹患歴や予防接種歴を確認し、
明らかでない場合は予防接種を検討してください。
- 麻しんの予防接種歴がない方で、発熱、咳、鼻水、眼球結膜の充血等 麻しんに特徴的な症状が現
れた方は、事前に医療機関に電話で連絡し、指示に従って受診してください。
その際、症状出現日の 10～12 日前（感染したと推定される日）の行動（海外の流行地や人が多く
集まる場所へ行ったかどうか等）について、医療機関にお伝えください。

《麻しんの予防接種について》

- ～1 歳になったら 1 回、小学校入学前の 1 年間にもう 1 回予防接種を受けましょう～
「生後 1 2 月から生後 2 4 月に至るまでの間にある者」及び「5 歳以上 7 歳未満の者であって、
小学校就学の始期に達する日の 1 年前の日から当該始期に達する日の前日までの間にある者」は、
予防接種法に基づく定期の予防接種を受けることができます。
- ※ 接種を希望される方は、お住まいの市町村の予防接種担当課にお問い合わせください。
- ※ 定期の予防接種の対象者以外の方で、麻しんの予防接種を希望される場合は、予防接種法に基
づかない任意の接種で受けることができます（費用は自己負担となります）。医療機関の医師に
ご相談ください。
- 麻しんの流行がみられる国に渡航される方は、予防接種をご検討ください。なお、海外の流行
情報は検疫所のホームページ（<http://www.forth.go.jp/>）で確認することができます。